

平成28年度 国語総合の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	国語総合	単位数	4	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	第一学習社 高等学校 新編国語総合				
問題集	尚文出版 国語必携 ライトパーフェクト演習				

2 学習目標

国語を適切に表現し，的確に理解する能力を育成し，様々な作品に触れることによってものの見方，感じ方，考え方を広げ心情を豊かにする。また言語感覚を磨き，言語文化や日本の現代文化，古典文化などに幅広く触れさせ，国語に関する関心を深め，国語や文芸作品を尊重し敬愛し，日本人であることの誇りを持てるようにすると共に，自立した社会人として通用する国語常識や普遍的なものの見方や考え方を育成する。
--

3 学習方法

① 教科書を繰り返し音読する。 ② プリントを用いて漢字の練習を行う。 ③ ワークシートを利用し読解を深める。 ④ 問題集を利用し，漢字・語句・国語常識を身につける。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	・オリエンテーション ・漢字・語句・文学史	・1年間の学習計画を理解する。 ・プリントを用いて漢字・語句・文学史を学習する。	・正しく漢字・語句・文学史を身につけることができたか。 ・プリントの提出。
	5	・問題集 P4～P7	・漢字の成り立ちについて学習する。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。
	6	新しい発見 「人はなぜ宇宙を思うのか」 ・問題集 P8～P13	・随筆の読み方の習得。 ・自己を見つめ確立していく力の養成。 ・漢字の音について学習する。 ・慣用句について学習する。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。 ・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。
	7	古文入門 「古典の学習」 「古文を読むために1」 ・問題集 P14～P19	・歴史的仮名遣いを理解する。 ・ことわざについて学習する。	・歴史的仮名遣いを理解できたか。 ・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。
	9	古文に親しむ 「児のそら寝」	・話のあらすじを理解する。 ・品詞の種類を確認する。 ・品詞の活用について学習する。	・歴史的仮名遣いを理解し，話のあらすじを理解できたか。 ・品詞の違いを理解し，識別することができたか。

第 2 学 期	10	・問題集 P20 ～ P25	・さまざまな表現について学習する。	・活用の概念が理解できたか。 ・ワークシートの提出。
		詩の楽しみ 「道程」「小景異情」「六月」	・近代詩・現代詩に親しむ。 ・詩を読み味わう方法を学ぶ。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。 ・日本における詩についての理解。 ・詩形の理解。 ・ワークシート及びノートの提出。
		・問題集 P26 ～ P31	・同音異義語，同訓異義語について学習する。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。
		11 生活の中の表現 「日本語のこころ」	・論理的な文章の展開・構成を理解しながら，筆者の主張を的確に捉える。	・論理的な文章の構成を理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシート及びノートの提出。
		・問題集 P32 ～ P37	・同義語，対義語について学習する。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。
		12 物語を楽しむ 「かぐや姫のおひたち」	・古語辞典を利用し口語訳ができるようにする。 ・話のあらすじをとらえ，おもしろさを味わう。	・重要古語を辞書で調べられたか。 ・あらすじをとらえ，内容が理解できたか。 ・本文を読み，味わうことができたか。 ・ワークシート及びノートの提出。
第 3	1	小説を読む（二） 「羅生門」	・短編小説の特色を理解し，人物の性格・心理・行動を読み取る。 ・小説という虚構をとおして，作者が伝えようとしたことを考える。	・登場人物の性格・心理・行動を読み取ることができたか。 ・全文を読み，展開が理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシート及びノートの提出。
		・問題集 P44 ～ 49	・現代文用語，類義語，言葉の係り受けについて学習する。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ワークの提出。
	2	漢文入門 「訓読に親しむ 1」 「訓読に親しむ 2」	・漢文を理解する上での基本的な事柄について，その原則を知る。 ・漢文の訓読に慣れる。	・漢文の訓読ができるか。 ・返り点の理解ができたか。 ・ワークシート及びノートの提出。

学 期	3	・問題集 P50 ～ 55	・ 比喻表現，敬語，熟語の構成について学習する。	・ しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ ワークの提出。
		故事成語 「五十歩百歩」	・ 故事成語を通じて，古代中国人の考え方を知り現代との共通点を見いだす。	・ 故事成語の意味が理解できたか。 ・ 返り点の理解・書き下し文ができたか。 ・ ワークシート及びノートの提出。
		・問題集 P56 ～ 67	・ 四字熟語について学習する。	・ しっかりとワークに取り組むことができたか。 ・ ワークの提出。

5 学習評価

（１）評価の観点及び内容について

以下に示す５つの観点に基づき，学習内容のまとめりとともに評価を行い，学年末に５段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点１ 関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図ろうとする。
観点２ 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり，話し合ったりして，自分の考えをまとめ，深めている。
観点３ 書く能力	相手や目的，意図に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えをまとめ，深めている。
観点４ 読む能力	文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。
観点５ 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付けている。

（２）「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点１	観点２	観点３	観点４	観点５	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	○	◎	○	◎	漢字テスト・音声テストなど
提出物	◎	○	○	○	◎	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	◎	◎	年間５回実施

（◎は，観点の中で特に重視するという意味です）

平成28年度 現代社会の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	現代社会	単位数	3	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	最新 現代社会 （実教出版）				
副教材等	新課程 最新現代社会 演習ノート （実教出版）				

2 学習目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
--

3 学習方法

① 教科書の写真やグラフを参考に基本事項の確認を行う。 ② プリントを利用し，重要事項への関心を高める。 ③ 具体例を増やし，興味関心を促す。 ④ 教科書などの事象についての質問などに，身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期		学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	第1部 わたしたちの生きる社会 第1章 地球環境問題 1. 破壊される地球(1) 2. 破壊される地球(2) 3. 地球環境問題への取り組み 第2章 資源・エネルギー問題 1. かぎりある資源 2. エネルギーの開発と利用 3. 人口問題と食糧・水資源 4. 資源循環型社会の形成	・地球の環境問題について把握するとともに，これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることを理解する。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害の現状を認識し，とくにエネルギー問題にあつては，国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目し，原子力や新エネルギーによる発電はどうあるべきか考える。	・地球環境問題，特に地球温暖化についての関心が高まり，自己との関わりに着目できたか。 ・資源は有限であることを理解し，様々な立場での考え方があることに気付き，それらの問題点が及ぼす影響について理解できたか。
	5	第3章 生命科学と情報技術の課題 1. 現代医学が問う生死のあり方 2. 脳死と臓器移植 3. 遺伝子技術と生命 4. 高度情報化社会と情報倫理	・生と死の在り方から人間の尊厳について考える。また新しい死，脳死について考える。 ・遺伝子技術の可能性，高度情報化に対応すべき情報モラルについて考える。	・科学技術の進歩が，人間の生命や死の在り方にまで影響が及んでいることが理解できたか。
		第2部 現代の社会と人間 ①青年期と自己の形成 第1章 自分らしく生きる 1. 青年期とは 2. 自己形成の課題(1) 3. 自己形成の課題(2) 4. 職業生活と社会参加	・青年期の意義と自己形成の課題について考え，青年としての生き方を自覚する。	・生涯における青年期の意義と自己形成，望ましい職業観・勤労観や男女起用道参画社会，社会参加などについて理解できたか。
	6	第2章 人間としてよく生きる 1. 哲学と人間 2. 宗教と人間 3. 科学と人間 4. 自由と幸福 5. 人間性の回復と主体性の回復 6. 他者の尊重	・先哲の思想や宗教の意義に触れ，人間としていかに生きていくべきかを考える。 ・現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成できるか，様々な思想家の主張を比較しながら考える。	・学ぶことの意義，人間としての幸福と科学，人間の尊厳，正義と自由などについて理解できたか。

	7	第3章 日本人としての自覚 1. 古代日本人の思想 2. 外来思想の受容と伝統 ②現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の基本原則 2. 法の支配と法の意義・役割 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界のおもな政治制度	・日本の思想と宗教の歴史について 外来思想の受容とともに、その伝統 について理解する。 ・世界の主な国の政治体制を比較し ながら理解するとともに望ましい政 治や主権者としての参政の在り方 について考える。	・わが国の古来から根付 いている思想や外来思想 の受容・伝統について理 解できたか。 ・近代民主政治のあゆみ と歴史的宣言・文書を通 じて、民主主義の原理の 形成過程を理解できたか 。
第 2 学 期	9	第2章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の制定 2. 自由に生きる権利 3. 平等に生きる権利 4. 社会権と参政権・請求権 5. 人権のひろがりと公共の福祉 6. 平和主義とわが国の安全 7. こんにちの防衛問題	・日本国憲法の基本原則と政治機構 や民主政治における世論形成と政治 参加の意義などを理解し、民主政治 において主体的に生きる人間として の在り方生き方を考える。 ・議会制民主主義と権力分立につい て、その意義や多数決の原理と運用 方法などについて理解するとともに 、民主政治の権力分立の意義を法の 支配や基本的人権の保障と関連づけ て理解を深める。 ・法に関する基本的な考え方を身に 付ける。	・基本的人権の保障と法 の支配、平和主義とわが 国の安全など日本国憲法 の基本原則について理解 できたか。
	10	第3章 日本の政治機構と政治参加 1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治と選挙制度 6. 世論と政治参加	・激動する経済社会について、様々な 角度から理解し、個人や企業の経済 活動における社会的責任について考 える。 ・金融の意義や役割を理解するとと もに、金融政策の目的と手段につい て理解する。 ・財政の意義と役割・租税について 理解し、日本財政の課題を考える。 ・新聞記事を題材にし、現実の動きと 関連させる。	・国民主権と議会制民主 主義など日本国憲法の基 本原則と世論形成や政治 参加の意義、民主政治の 課題について理解できた か。
	11	③現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1. 経済社会の変容 2. 市場のしくみ 3. 現代の企業 4. 国民所得 5. 経済成長と国民の福祉 6. 金融の役割 7. 日本銀行の役割 8. 財政の役割と租税 9. 日本の財政の課題	・都市型・生活型公害や身近な環境 汚染の事例をもとに、その解決には 法整備だけではなく、個人や企業に も社会的責任が課されていることを 理解する。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済 社会の変化や国民の勤労権の確保の 観点から考える。 ・人間として生活が保障される社会 保障制度の意義や役割を理解すると ともに、医療・介護・年金などの保 険制度にみられる現状と課題を理解 する。	・現代の経済社会におけ る企業の働き、公的部門 の役割と租税、金融機関 の働きなどについて理解 できたか。
	12	第2章 日本経済の特質と国民生活 1. 日本経済のあゆみ(1) 2. 日本経済のあゆみ(2) 3. 中小企業と農業 4. 消費者問題 5. 公害の防止と環境保全 6. 労働問題と労働者の権利 7. こんにちの労働問題 8. 社会保障の役割	・主権や国際政治、国際経済などの 諸問題を理解し、国際社会における 日本の役割や日本人の生き方を考え る。	・現代の経済社会におけ る技術革新と産業構造の 変化、雇用と労働問題、 公害の防止と環境保全な どについて理解できたか 。
	1	④国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の変化 1. 国際政治の特質 2. 国際連合と国際協力	・人権、国家主権、国際 法などを理解できたか。	

第 3 学 期	3. 第二次世界大戦後の国際政治 4. 人種・民族問題 5. 軍拡競争から軍縮へ	・国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考える。	
	2 第2章 国際経済の動向と国際協力 1. 国際経済のしくみ 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. こんにちの国際経済 5. 発展途上国の諸課題 6. 経済協力と日本の役割	・国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例をもとに考える。 ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目し、地域経済統合が進展する背景や影響について考える。 ・国際協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考える。	・経済の国際化、労働力・資本・技術・情報などの地球規模での移動や貿易の拡大と不均衡、南北問題などを理解できたか。
	3 第3部 共に生きる社会をめざして 1. WTO体制と発展途上国 2. 個人の自由と持続可能な社会	・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚し、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考える。	・持続可能な社会、他文化共生社会や格差と貧困の解消などについて、その問題の所在と解決にむけての課題について理解できたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

次の4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。
なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	・現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
2 思考・判断	・現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
3 資料活用の技能・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
4 知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 数学Ⅰのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅰ	単位数	4	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	東京書籍 新 数学Ⅰ				
副教材等	東京書籍 ニューファースト 新 数学Ⅰ				

2 学習目標

数と式, 図形と計量, 2次関数及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り, 授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また, 問題集などでの復習を通して, 理解した内容を定着させましょう。ぜひ, 苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 数と式 1節 整式 1 文字を使った式 2 整式	・ 文字式	文字を含んだ式の約束を確認し, 正しく文字式を扱うことができる。 単項式, 単項式の次数, 係数, 多項式, 項, 定数項, 整式, 同類項, 整式の次数, 高次式など, 式についての用語の意味を理解し, 整式を整理するなかで, 式についての見方を豊かにする。
	3 整式の加法・減法	・ 整式の加法, 減法	整式の加法・減法の仕組みを理解し, それらの計算ができる。
	4 整式の乗法 5 乗法公式	・ 指数法則 ・ 乗法公式	指数法則, 単項式の乗法について理解し, さらに分配法則を用いて整式を展開することができる。
	6 因数分解	・ 因数分解の公式	乗法公式について理解し, 乗法公式が利用できる。また, 式の一部を置換して考えるなど, 見通しをもって整式を展開することができる。
	2節 実数 1 数の分類 2 根号を含む式の計算	・ 自然数, 整数, 分数, 有理数, 無理数 ・ 平方根 ・ 平方根の計算 ・ 分母の有理化	分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し, 因数分解の公式が利用できる。また, 式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど, 見通しをもって因数分解することができる。
	3節 方程式と不等式 1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の性質 4 不等式の解き方 5 不等式の利用	・ 1次方程式 ・ 1次不等式 ・ 連立1次不等式	自然数, 整数, 有理数, 無理数の意味を理解して, それらを区別できる。さらに, 実数について理解するとともに, 数を拡張することに興味をもつ。 根号を含む式の基本的な計算をすることができる。また, 分母の有理化について理解する。
	6 2次方程式とその解き方	・ 因数分解による2次方程式の解法 ・ 平方根による2次方程式の解法 ・ 解の公式による2次方程式の解法	1次方程式について理解し, 1次方程式を解くことができる。 不等号の意味を理解し, 数量の大小関係を不等式で表すことができる。 不等式の性質を用いて不等式を変形し, 解くことができる。 1次不等式を利用して, 文章題を解決することができる。

	2章 2次関数 1 節 2 次関数とそのグラフ 1 関数 2 2 次関数とそのグラフ 2節 2次関数の値の変化 1 2次関数の最大値・最小値	・ 1 次関数 ・ 2 次関数 ・ 2 次関数の頂点 ・ 平方完成 ・ 2 次関数の最大値, 最小値	関数の概念の理解し, また, 1次関数のグラフをかくことができる。 2次関数の概念を理解して, 2次関数のグラフの特徴を学び, そのグラフをかくことができる。また, 2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に変形し, そのグラフを利用できる。 2次関数の最大値・最小値についてグラフを利用して理解し, それらの値を求めることができる。また, それを利用して文章題を解決することができる。
第2学期	2 2次関数のグラフと 2次方程式 3 2次関数のグラフと 2次不等式 3章 三角比 1 三角形 2 タンジェント 3 サインとコサイン 4 三角比の利用 5 三角比の相互関係 2節 三角比の応用 1 三角形の面積 2 正弦定理 3 余弦定理 4 三角比と座標 5 三角比の相互関係 6 鈍角の三角比と計量	・ 2 次関数のグラフ ・ 2 次方程式 ・ 2 次不等式 ・ 直角三角形 ・ 三平方の定理 ・ 三角比の定義 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角形の面積 ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 鈍角の三角比	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し, グラフとx軸の共有点のx座標を求めることができる。また, 式の見方を豊かにするとともに, グラフを活用することのよさを認識する。 2次関数のグラフと2次不等式の解の関係を理解し, グラフを利用して2次不等式を解くことができる。 相似な三角形の性質を理解し, 辺の長さを求めることができる。また, 三平方の定理を理解し, 直角三角形の辺の長さを求めることができる。 直接測ることができない長さなどを, 相似な直角三角形の辺の比を使って求めることを通して, 正接の意味を理解する。 正弦, 余弦の意味を理解する。また, 30° , 45° , 60° の三角比の値を求めることができる。 三角比の表の利用の仕方を学習し, 三角比の表を活用して三角比の値を求めることができる。また, 三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことにより, 三角比の有用性を認識する。 三角比の相互関係について理解し, 1つの三角比の値から他の 2つの三角比の値を求めることができる。また, $90^\circ - A$ の三角比の値を求めることができる。 。与えられた辺の長さや角の大きさから, 三角形の面積を求めることができる。 。三角形の角の正弦の値と対応する辺の長さとの関係, さらに外接円の半径との関係を調べて, 正弦定理を理解するとともに, 図形の計量の際に正弦定理を有効に活用することができる。 三角形の角の余弦の値と辺の長さとの関係を調べて, 余弦定理を理解するとともに, 図形の計量の際に余弦定理を有効に活用することができる。 座標を用いて三角比を考え, 鈍角や 0° , 90° , 180° で拡張した三角比の意味を理解する。 角が鈍角の場合も, 三角比の相互関係が成り立つことを理解する。また, $180^\circ - \theta$ の三角比の値を求めることができる。 角が鈍角の場合も, 三角形の面積の公式, 正弦定理, 余弦定理が成り立つことを確認する。また, 空間図形において, その中に含まれる三角形に着目し, 三角比や定理等を有効に活用して, 計量の問題

第3学期	4章 集合と論証		を解決することができる。
	1節 集合と論証		部分集合, 全体集合, 補集合, 共通部分, 和集合などの集合の表し方, 用語, 記号を, 図を用いて理解し, 記号を使って表すことができる。
	1 集合	・集合と要素 ・共通部分 ・和集合	命題の真偽と反例を考えることができる。また, 必要条件, 十分条件, 必要十分条件の意味を知り, さらに図表示による包含関係と関連づけて理解する。
	2 命題と集合	・命題 ・命題と条件	命題の逆, 対偶について理解し, 対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び, 論理的な思考力を養う。
	3 命題と証明	・逆, 裏, 対偶	データの特徴をとらえやすくするために, 度数分布表, ヒストグラム, 相対度数分布表に表すことができ, データを整理する有用性に気づく。
	1節 データの分析	・データの分析	データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し, それを平均値, 中央値, 最頻値などの代表値で表すことができる。
	1 データと度数分布表		データの分布の特徴を表す値として, 代表値だけでは不十分であることから, 平均値をもとにした分散, 標準偏差を理解し, それを求めることができる。
	2 代表値	・中央値, 最頻値	2つの変量の組の値を散布図に表すことによって, 2つの変量の相関関係が調べられることを理解する。
	3 散らばりぐあいを表す値	・分散	散布図による相関関係を相関係数により数値化し, 相関の強さが表せる有効性を認識する。
	4 分散と標準偏差	・標準偏差	
	5 相関関係	・相関関係	
	6 相関係数	・相関係数	

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき, 学習内容のまとまりごとに評価を行い, 学年末に5段階の評定に総括します。

なお, 学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち, それらを意欲的に探究するとともに, 数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について, 数学的にとらえて論理的に考察したり, 表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けられる。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法	観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察		◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物		◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート		◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査		○	◎	◎	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 地学基礎 のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	地学基礎	単位数	3, 2	履修学年・区分	1, 2 学年
使用する教科書	地学基礎 (東京書籍)				
副教材等	ニューサポート 地学基礎 (東京書籍)				

2 学習目標

私たちの住む地球は太陽系に属する惑星です。そしてその地球は今のところ生命の宿る唯一の星です。その事実を踏まえたとき、自分の住む場所について深く知っておくことは決して無駄なことではないことが分かると思います。

地学基礎では、地球と太陽系のその他の惑星との比較や、地球の成り立ちおよび地球の地層や地質について学び、地学分野に関する観察、実験などを通して、地球に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3 学習方法

- ① TV番組や新聞記事に掲載される、興味ある記事に自分から積極的に触れていきましょう。
- ② ノートはただ板書を写すだけでなく、自分に分かりやすいようにまとめましょう。
- ③ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い、知識の定着を図りましょう。
- ④ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1. 私たちの宇宙の進化 1章 宇宙の構造と進化	1 ビッグバンと宇宙の進化 2 宇宙原理と宇宙の膨張 3 天体の誕生 4 銀河と天の川銀河 5 銀河の集団と大規模構造	・宇宙の成り立ちと現在までの移り変わりを理解する。 ・天の川銀河の構造や宇宙での位置について理解する。 ・その他の銀河の存在について理解する。
	2章 太陽と惑星	1 太陽系の惑星と進化 2 惑星・小惑星・彗星の起源 3 太陽の進化とその最後 4 太陽の特徴 5 太陽の活動と地球への影響 6 地球型惑星と木星型惑星 7 太陽系の広がりと地球	・太陽系の構造を理解する。 ・太陽の構造およびその行く末について理解する。 ・地球型惑星と木星型惑星の特徴を説明できる。
	2. 私たちの変遷と生物の進化	1 原始地球の誕生 2 先カンブリア時代	・地球だけが水と生命のある星になった理由及び地球誕生

	1 章 生命の変遷	3 古生代 4 中生代 5 新生代	時の様子について理解する。 ・地質時代と生物の変遷との関係を把握する。 ・化石を通して生物の進化の道筋を理解する。
第 2 学 期	2 章 地層や岩石の観察	1 地層の構成 2 地層と古環境 3 地質構造	・様々な地層と堆積物について理解すると共に、化石から古環境を探る方法を学ぶ。 ・断層・褶曲・不整合を理解する。
	3. 私たちの地球 1 章 大地とその動き	1 地球の形と大きさ 2 地球の構造 3 地球内部の動き 4 プレーートの境界	・地球の形や大きさの求め方を学び、地球の内部が層構造であることを理解する。 ・プレートとその境界の様々な動きについて理解する。
	2 章 地震	1 地震のメカニズム 2 海溝の地震 3 活断層 4 地震による災害と防災	・地震のメカニズムや地震による災害やその影響について学ぶ。
	3 章 火山	1 火山ができる場所 2 火山活動の多様性 3 火成岩の観察 4 火山の恵みと災害	・火山の形成場所や火山の特性、火成岩の分類について理解する。 ・火山の恵みと災害について深く学ぶ。
第 3 学 期	4 章 大気と海洋	1 地球の大気 2 地球の熱収支 3 大気の大循環 4 海水とその運動 5 日本の海の恵みと災害	・大気の組成や大気圏の構造について理解する。 ・地球の熱収支や大気の大循環について理解する。 ・海水の特性について学ぶ。 ・日本の海の恵みと災害について深く理解する。
	4. 私たちの地球のこれから 1 章 地球環境の考え方	1 地球システム 2 時間・空間スケール 3 フィードバックのしくみ	・フィードバックや相互作用といった地球システムについて理解する。

	2章 自然環境の変動	1 自然環境の変化 2 人間活動がもたらす自然環境の変化	・自然環境の変化について把握する。 ・人間活動による様々な環境問題について理解を深める。
	3章 日本の自然環境	1 日本の自然がもたらす恩恵 2 日本における自然災害 3 災害と人間	・日本の自然がもたらす恩恵や災害について学ぶ。
	4章 これからの地球環境	1 世界の取り組み 2 代替エネルギー 3 持続可能な発展へ	・環境問題に対する世界規模での取り組みを理解する。

5 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 お よ び 内 容	
1「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中でとらえるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
2「思考・判断・表現」	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
3「観察・実験の技能」	地球や地球を取り巻く環境に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
4「知識・理解」	地球や地球を取り巻く環境について、原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2)「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体 育	単位数	3	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を实践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	○集団行動 ○体力づくり運動 ○体育理論 ○球技 サッカー, バスケットボール, 卓球, バドミントン ○水泳	①姿勢②方向変換③集合, 整とん, 番号, 解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・体ほぐしの運動, 体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ ⑤横泳ぎ	・基本動作 (姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減) ができたか。 ・持久性, スピード, 筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・自己の目標を設定し, 目標に取り組んだり, チーム内で協力したりできたか。 ・より長く, より速く泳げるように, 自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	○体力づくり運動 ○体育理論 柔道, ダンス ○選択① バレーボール, ソフトボール, 卓球, テニス ○選択② バスケットボール, サッカー バドミントン, 卓球	・体力を高める運動 ・体育理論 ・柔道 (受身・寝技・立ち技等) ・ダンス (フォークダンス, 創作ダンス等) ・基本技術の習得 ・ゲーム ・基本技術の習得 ・ゲーム	・礼儀作法・技の習得ができたか。 ・身体全体で動きを表現できたか。 ・サービス, パス, レシーブ, スpikeができたか。 ・キャッチボール, バッティングができたか。 ・サービス, スマッシュ, ボレーができたか。 ・シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・パス, キャッチ, ドリブル, シュートができたか。 ・パス, トラップ, ドリブル, シュートができたか。 ・ルールを理解し, ゲームができたか。
第3学期	○体育理論 ○選択③, ④ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体育理論 ・基本技術の習得 ・ゲーム	・シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・サービス, スマッシュ, ボレーができたか。 ・パス, キャッチ, ドリブル, シュートができたか。 ・サービス, パス, レシーブ, スpikeができたか。 ・自らのペースを知り, 一定のペースで長い距離を走ることができたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「運動の技能」、観点4「知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。
2 思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。
3 運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
4 知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度、取り組み。準備・片付け、協力等。
実技	◎	○	◎	◎	練習やゲーム等。
技能テスト	○	◎	◎	◎	種目や学期毎で実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保 健	単位数	1	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	最新高等保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新高等保健体育ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

新たな健康問題の登場とともに、健康のとらえ方や健康を守る活動も変化してきています。自分たちだけではなく、すべての人々が健康の保持増進を実現するために必要なことです。 保健では、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てることを目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健（健康問題も含む）の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。教科書・ノートを参考に授業内容の予習・復習をしっかりと行いましょう。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 4 生活習慣病とその予防 5 食事と健康 6 運動・休養と健康 7 喫煙と健康	- WHO - ヘルスプロモーション - 平均寿命, 平均余命 - 予防法 - 生活習慣病 5大栄養素 - 有酸素運動 - 受動喫煙	- WHO憲章を理解することができたか。 - 健康にはどのような要因がかかわっているのかを説明できるようになったか。 - 早期発見, 早期治療と今後の生活習慣が重要であることを理解できたか。 - 自分の食生活を振り返ることができたか。 - 運動及び休養が健康の保持増進にとって重要であることが理解できたか。 - 健康問題が, 個人社会レベルで説明できたか。
第2学期	8 飲酒と健康 9 薬物乱用と健康 10 感染症とその予防 11 性感染症・エイズとその予防 12 欲求と適応機制 13 心身の相関とストレス 14 心の健康のために	- 飲酒の問題点 - 薬物乱用 - 新しい感染症 - HIV, AIDSについて - さまざまな適応機制 - 心身相関 - ストレスへの対処法	- 薬物の誘惑に, “絶対にNO!”と言える自分が大切であることが理解できたか。 - 性感染症, エイズについて個人が具体的な対策を考えられるようになったか。 - 欲求について理解し, 様々な適応機制を説明できるようになったか。 - 心と体の働きが相互に影響し合う関係であることを知り, ストレスへの対処方法を理解できたか。
第3学期	15 交通事故の現状と要因 16 交通事故を防ぐために 17 応急手当の意義とその基本 18 日常的な応急手当 19 心肺蘇生法の原理とおこない方	- 事故の原因 - 安全な交通社会 - RICEについて - 心肺蘇生法の実習	- 怪我や熱中症の応急手当の手順や方法とその予防を理解することができたか。 - 心肺蘇生法を理解し, できるようになったか。 気道確保→呼吸観察→人工呼吸→胸骨圧迫→AEDの正しい理解と技術・手順を身に付けることができたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「知識・理解」という3つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	現代社会と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
2 思考・判断	現代社会と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。
3 知識・理解	現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	授業中の態度，取り組み。
ノート	◎	○	◎	年間3回提出
課題・宿題	◎	○	◎	毎時間
定期考査	○	◎	◎	年間3回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 音楽Ⅰの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅰ	単位数	2	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	ON! 1 音楽之友社				
副教材等					

2 学習目標

- 1 歌唱を通して，旋律や歌詞の美しさ，ハーモニーの響きを味わうことができる。
- 2 器楽を通して，楽器の演奏技術を高め，合奏で協調性を養い，演奏する楽しさを味わう。
- 3 鑑賞を通して，様々な分野の音楽を味わい，豊かな心を育てる。
- 4 楽典を通して，音楽の基礎知識を学び，理解を深める。

3 学習方法

- 1 歌唱においては，季節の歌や外国語の歌など様々な分野を取り入れ，曲の特徴を知り，また合唱を通して美しい響きを表現します。
- 2 器楽においては，ギターで楽器の構造を知り，奏法や指使い，響きについて学びます。
個人の進度に応じて課題を設定し，練習します。
- 3 鑑賞においては，様々な分野の音楽を鑑賞し，感想記録を通して，興味関心を深めます。
- 4 実技においては，学習記録表を用いて，個人の進度状況を把握していきます。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	・歌唱・・校歌・日本唱歌 ・器楽・・ギター（音階） ・鑑賞・・西洋音楽 ・楽典・・聴音・音符休符	・校歌を歌い，愛校心を育てる。「さくら」「この道」などを歌い，発声に留意しながら日本唱歌を味わう。 ・ギターの構造を知る。音階の指使いを知る。 ・古典派の音楽を鑑賞する。モーツアルトを知る。 ・聴音は1オクターブの単音を聴き取り，楽譜に書く。音符休符の基礎知識を知る。	・校歌の歌唱試験を行う。（歌詞把握・声量・音程など） ・音階試験を行う。（指使い・音色など） ・鑑賞の感想提出・モーツアルトをまとめる。 ・楽典・聴音の小テストを行う。（聴音は1オクターブ単音）
第2学期	・歌唱・・季節の歌・外国語 ・器楽・・ギター（コード）	・「夏の思い出」「紅葉」などを歌い，歌詞の美しさや季節感を味わう。また三部合唱でハーモニーの美しさを味わう。 ・英語「let it be」を通して，歌詞の意味やリズムを味わい，親しみを持つ。 ・ギターのコードの押さえ方を覚える。コードの構造について知る。簡単なコード演奏をして，	・単旋律と合唱の歌唱試験をグループで行う。（声量・音程・表現） ・コードの押さえ方の試験を，曲演奏を通して行う。

	・鑑賞・・日本音楽 ・楽典・・聴音・楽語	- 和音の響きを味わう。 ・長唄や歌舞伎の鑑賞を通して、その意味や、伝統音楽を味わう。 ・聴音は単音と2和音を聴き取り、楽譜の書き方を学ぶ。楽語を覚える。	・鑑賞の感想提出。伝統音楽をまとめ、提出。 ・楽典・聴音小テストを行う。 (聴音は1オクターブ単音と2和音)
第3学期	・歌唱・・季節の歌・外国語 ・器楽・・ギター（まとめ） ・鑑賞・・ミュージカル ・楽典・・聴音・音階 ・まとめ	・季節の歌の合唱や、イタリア語の歌を歌い、旋律やリズムを味わう。外国語は発音に留意する。 ・ギターは個人の進度に応じて選曲し、練習する。グループセッションを行う。 ・ミュージカル「オペラ座の怪人」を鑑賞する。 ・聴音はリズム聴音の書き方を知る（四分音符・八分音符）。長調・短調の音階を覚える。 ・季節の歌の三部合唱でハーモニーの美しさを感じる。	・発音や発声に留意し、イタリア語歌唱試験を行う。（発声・発音・音程） ・選曲に応じて、グループ発表会を行う。 ・鑑賞の感想を提出。ミュージカルの構造や歴史についてまとめる。 ・楽典・聴音の小テストを行う。 (聴音は1オクターブ単音と2和音、リズム聴音)

5 学習評価

- 1 歌唱・器楽・楽典は学期ごとに試験を行います（個人・グループ評価）。
- 2 鑑賞の感想、音楽史まとめ、実技における学習の記録で評価します。

評価は、観点1「音楽表現の技能」観点2「音楽表現の創意工夫」観点3「鑑賞の能力」観点4「音楽への関心・意欲・態度」の4つの観点に基づいて行います。日々の授業に取り組む姿勢も大切です。

実技試験においても、試験だけではなく、そこまでの練習過程も重視します。

評価方法は次の通りです。

評価方法／観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
実技試験	◎	◎	○	◎	歌唱・器楽の試験を行う。
楽典試験	○	○	◎	◎	楽典・聴音・音楽史等試験を行う
提出物	◎	◎	◎	○	鑑賞の感想・実技練習記録・楽典音楽史プリント

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

平成28年度 コミュニケーション英語Ⅰの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	4	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	VISTA English CommunicationⅠ（三省堂）				
副教材等	VISTA English CommunicationⅠ WORKBOOK（三省堂）				

2 学習目標

◎ 日本語とは大きく異なる英語の世界を理解し，世界の人々と積極的にコミュニケーションをする力を養うために以下の目標に沿って学習します。 ・基礎的な単語や熟語（「ボキャブラリ」といいます）を確実に覚えよう。 ・基本的な英文法をしっかりと身につけよう。 ・簡単な英語を使って，コミュニケーションに挑戦しよう。 ・外国の文化に興味や関心を持とう。
--

3 学習方法

①高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。特に，中学時代に英語が苦手だった人は，初心に帰って「授業を大切に」から再出発しましょう。 ②次の授業に備えての予習やその日に学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。 ③定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかり準備すれば高得点に結びつきます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。

4 学習計画

学 期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学 期	Get Ready 日常生活で見かける英単語と簡単な日常会話	アルファベットの発音と書き方を復習する。辞書の使い方と英単語の覚え方を確認する。基本的な日常会話の表現を身につける。	・アルファベットの大文字と小文字をきちんと読めて書けるか。 ・辞書を使って単語の意味を正確に調べられるか。 ・簡単な表現を用いたコミュニケーション活動ができたか。
	L1 A White Land 南極と私たちの生活の関連性について考えよう。	be動詞・一般動詞の初歩的な用法と否定文の作り方について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・否定文への書き換えはできるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L2 Skiing in the Desert アラブ首長国連邦のひとつドバイについて知ろう。	疑問文の作り方と現在進行形の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・疑問文への書き換えはできるか。また現在進行形を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Basic English	1. アルファベット 2. 代名詞 3. be動詞の用法	・アルファベットの大文字と小文字を正確に書くことができるか。 ・代名詞を意味の違いに応じて活用できるか。 ・主語や時制に対応して，be動詞の使い分けができるか。疑問文及び否定文への書き換えはできるか。
	L3 Is Bento English? 「弁当」をはじめ，日本語のまま海外で使われている語について知ろう。	助動詞と過去形の用法とその否定文・疑問文の作り方について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・助動詞を用いた表現ができるか。 ・過去形を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。

第2学期	L4 Mont-Saint-Michel 人類の遺産を守ることの大切さについて考えよう。	that節の初歩的な用法について理解する。	- 本文の内容は理解できたか。 「節」のはたらきについて理解できたか。 - 新出言語材料は身についたか。
	Basic English	4. 一般動詞の用法 5. 疑問詞 6. 進行形 7. 助動詞	- 主語や時制に対応して動詞を活用できるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 - 疑問詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。 - 現在進行形と過去進行形を用いた表現ができるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 - いろいろな助動詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。
第3学期	L5 Baobabs in Madagascar バオバブをどうしたら保護できるか考えよう。	不定詞の用法について理解する。	- 本文の内容は理解できたか。 - 不定詞の意味の使い分けができるか。 - 新出言語材料は身についたか。
	L6 Toothbrushing in Edo 江戸時代の生活習慣（歯磨き）について学習しよう。 Basic English	動名詞の用法について理解する。 7. 不定詞 8. 現在完了形 9. 比較	- 本文の内容は理解できたか。 - 動詞と動名詞の違いを理解できたか。 - 新出言語材料は身についたか。 - 不定詞の意味と用法を理解することができたか。 - 現在完了形の意味と用法を理解することができたか。 - 意味の違いに応じて、適切に比較変化をさせることができるか。

5 学習評価

評価は、観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、観点2「外国語表現の能力」、観点3「外国語理解の能力」、観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認、語彙、音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント、ノート、ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★小テスト

学習内容の確実な理解のためにも、毎回高得点を目指しましょう。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

◎英語の授業はいつでも、「テストの得点+普段の努力」が大切です。

平成 28 年度 家庭総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	1 学年 (1・2 学年各 2 単位の分割履修)
使用する教科書	家庭総合～ともに生きる 明日をつくる～ (教育図書)				
副教材等	生活ガイドブック データ&グラフ (教育図書)				

2 学習目標

- ・身近な生活の中から課題を見出し, 解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

3 学習方法

- ①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。
- ②調理実習や被服製作実習を通し, 基礎的技術を身につける。
- ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し, 科学的・理論的に学ぶ。
- ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	「家庭総合」の学習について (ホームプロジェクト) 《単元》衣生活 ①なぜ服を着るの？ ②衣服の成り立ちと性質を考えよう ③衣服はどのように管理する？ ④伝統的な衣服とは？ ⑤衣服をつくってみよう！ (期末考査)	・学習の目標や内容, 具体的な学習方法を理解します。 《ねらい》 衣服の機能や着装, 材料などの基礎的な知識・技術の習得を目指し, 豊かな衣生活を営む。 《具体的活動》 ①講義 ②講義・燃焼実験 ③講義・調べ学習 カラーコーディネート実習 ④講義 ⑤エプロン製作実習	①衣生活を自分のこととして取り組むことができたか。 ②衣服の材料に関心を持ち, 特徴を理解できたか。 ③衣服の関心を衣生活全体の問題として取り組み, 衣服の選択と手入れの方法を具体的に理解できたか。 ④民族衣装に関心を持ち, 和服の特徴について理解できたか。 ⑤被服製作に意欲的に取り組み, 自分らしい表現を作品に表すことができたか。また, 基本的縫製技術を身につけられたか。 ・ワークノート ・実験記録 ・作品 ・実習記録 (自己評価カード)
第 2 学期	《単元》住生活 ①誰が暮らしているのだろう？ ②どのように暮らす？ ③地域の中で暮らす ④文化・環境と暮らし (期末考査)	《ねらい》 住居に関する事象を科学的に理解させるとともに, 住生活の文化への関心, 必要な技術の習得を目指し, 豊かな住生活を営む。 《具体的活動》 ①講義 ②実習 ③ディベート	①住まいの機能や気候との関係, 歴史を理解できたか。 ②デザインを考え, 実生活に即した形で表現できたか。 ③快適な住まいとは何かを理解し, 快適さの追求を生活に生かそうとしたか。 ④環境に配慮した住まいの在り方を考えることに意欲的に取り組めたか。 ・ワークノート ・実習記録

第 3 学 期	《単元》消費生活 ①暮らしとお金のかかわりは？ ②暮らしに必要なお金は？ ③何をどうやって買う？ ④自立した消費者とは？	《ねらい》 家庭の経済生活や消費者の権利・責任を理解させるとともに、現代の消費生活の課題を認識して、環境に配慮した適切な意志決定に基づいた消費行動をする態度を育成する。 《具体的活動》 ①講義 ②講義 ③ディベート ④グループでの調べ学習	①家庭の経済と国民経済の関係を理解できたか。 ②収支のバランスをみて家計を管理できたか。 ③消費生活の問題点を指摘し、お金の流されない豊かな消費生活に活かそうとしたか。 ④消費者問題に関心を持ち、消費者の権利と責任を理解できたか。 ・ワークノート ・VTR視聴記録
	(期末考査) まとめと反省	《ねらい》 一年間の学習を振り返り、実生活に生かそうとする態度を育成する。また、2年生の学習の目標を決める。 《具体的活動》 ①一年間の反省・感想記入	①一年間の学習を反省することで、次年度の目標を立てることができたか。 ・作文 ・自己評価カード

5 学習評価

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

観点1	関心・意欲・態度	家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。
観点2	思考・判断・表現	家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。
観点3	技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。
観点4	知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。

観点 評価方法	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
テスト	○	◎	○	◎	学期末考査等
提出物	◎	◎	○	○	課題等
実技	◎	○	◎	○	被服実習等

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。

平成28年度 社会と情報のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	社会と情報	単位数	2	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	最新社会と情報(実教出版)				
副教材等	基礎からはじめる情報リテラシー2013(実教出版)				

2 学習目標

- ・アプリケーションソフト(マイクロソフトオフィス)の使い方をマスターします。
- ・著作権・肖像権・各種情報を取り扱う上での法規, マナー等を学習し, 身につけます。

3 学習方法

- ・副教材を使用して, リテラシー(基本能力)を身に付けます。授業は実習中心に行います。授業で行った課題を評価しますので, 授業にしっかり取り組むことが基本です。
- ・身につけたリテラシーをもとに, プレゼンテーションを行います。その際, 情報の収集, 発信, 活用に必要な法規とマナーも併せて学習します。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	パソコンの基本操作 マイクロソフト Word ・入力のいろいろ ・体裁を整える ・図を挿入する ・表を作成する ・ビジネス文書を作成する ・ビジュアルな文書を作成する	・マイクロソフト社の文書作成ソフト Word を使用し, 実習します	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。
第2学期	マイクロソフト Excel ・データを入力する ・計算をする ・体裁を整える ・グラフを作成する ・表を印刷する ・いろいろな関数を利用する マイクロソフト PowerPoint ・簡単なプレゼンテーションを行う ・オブジェクトを挿入する	・マイクロソフト社の表計算ソフト Excel を使用し, 実習します。 ・マイクロソフト社のプレゼンテーションソフト PowerPoint を使用し, 実習します。	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。
第3学期	・情報の活用 ・ネットワーク ・情報社会の課題 ・	・インターネット, メディア等の様々な媒体から情報を収集する方法を学習します。 ・収集した情報を分析, 評価し, 活用する方法を学習します。 ・情報を創造し, 表現, 発信, 共有伝達する方法を学習します。 ・情報の収集, 蓄積共有, 分析評価, 創造, 表現, 発信, 共有, 伝達する際に留意すべき法規, 情報モラルを学習します。	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。

5 学習評価

評価は, 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。評価方法は, 次のとおりです。(◎＝観点の中で特に重視するもの)

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
テスト	○	◎	◎	◎	実技テスト等
提出物	○	◎	◎	○	制作物, 課題等
実技	◎	○	◎	○	操作技術等

情報の成績を評価する上で一番重要なことは, 授業に取り組む姿勢です。授業内で課題を作成し, 提出後, それを評価することが中心になりますので, 授業中意欲的に取り組むことが重要です。授業中怠けていて課題が終了しなかったり, 仕上がりが悪かったりすると, 当然低い評価になります。授業を大切に, 意欲的に取り組むよう頑張ってください。